向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.15　2017 年 4 月 1 日発行

水戸藩駒込邸跡に移転した朱舜水先生終焉之地

朱舜水先生終焉之地移転

1. 朱舜水先生終焉之地建立と移転

2017 年 2 月 10 日、朱舜水先生終焉之地は農学部正門北側から農学部 1 号館東側に移転しました。東京都の解説板に設置場所は水戸藩駒込邸の外と明記されており、移転が課題となっていましたが、2015 年の上野英三郎博士とハチ公像建立に伴い旧駒込邸内へ移転することになりました（図 7、8）。朱舜水先生終焉之地は日中関係が悪化していた明治 45（1912）年、第一高等学校（現、弥生地区）で開催された「朱舜水先生二百五十年紀年会」で建立されました。中国から朱家を招き、徳川宗家、水戸徳川家、尾張徳川家、加賀前田家、徳川慶喜に仕えた渋沢栄一、後藤新平他、第一高等学校生徒が参列。学生の中には芥川龍之介がいました（芥川龍之介『歯車』に芥川が「朱舜水」と発声できなかったエピソードが描かれる）。碑は 5 回の移転を経て（註 1）駒込邸内へ戻ってきました。

2. 朱舜水と水戸藩

朱舜水（図 1）は浙江省余姚市（図 2）出身の明の学者で清朝に滅ぼされた明朝の復明運動は実現せず、長崎に留まっていました。水戸藩 2 代藩主徳川光圀は小宅処斎を長崎へ派遣、朱舜水を水戸藩へ招聘します。朱舜水は寛文 8（1668）年から水戸藩駒込邸（中屋敷）で儒学、史料編纂等の学問の他、礼法、農業、土木技術など実学を伝えました。光圀は明暦 3（1657）年、彰考館となる史館を駒込邸に開設、歴史編纂事業を開始します。朱舜水招聘後、学者の人数は増加（図 6）。加賀藩 5 代藩主前田綱紀は源（五十川）剛伯を朱舜水のもとに派遣、同藩の木下順庵や他藩の学者との交流もあり、学者と関係者、水戸藩の役人の集まった駒込邸は活況を呈していたと考えられます。第一高等学校、現在の東京大学につながります。朱舜水は天和 2（1682）年、邸内で亡くなり水戸徳川家の墓所のある瑞龍山へ葬られます。駒込邸に朱舜水の祠堂（図 5）が建設され慰霊祭が行われましたが、元禄 16（1703）年の火災で祠堂は焼失し水戸へ移転しました。

3. 朱舜水の屋敷

碑をどこに移転するか、朱舜水の時代の絵図は今のところ存在しないため、これまでの駒込邸の研究をもとに設置場所を決定しました。文献に朱舜水は日本の山桜を入り屋敷の周り、没後建立された祠堂周りに山桜を植えられたとありますが、これまで植栽痕、建物基礎を検出した遺跡は確認できていません。農学部の地形は、西から 1～3 号館の位置する台地、4 号館から圃場までの傾斜地、圃場（畑）の低地の 3 つに分かれます。圃場から下級武士が使用したと考えられる「享保十九甲寅」（享保 19（1734）年）墨書の土器、遺構が確認されています。弥生地区の地形は基本的に江戸時代から大きな変化はなく圃場に雨水が集まります。雨水処理で問題のある場所が下級武士の区域だったと推定できます。文政 9（1826）年の絵図ではこの低地部分を斜めに縦断する道路で、藩主の区域と家臣の区域を区画し雨水を流す切り通しを造成、雨水対策が行われます（註 2）。1～3 号館の台地の遺跡調査では朱舜水の時代の遺跡から京焼の仁清の水差しなどが出土し、上級家臣の区域だったと考えられます。浅野地区には不忍池を借景した庭園のある御殿があり、藩主と藩主家族の区域でした。朱舜水の屋敷には藩士、全国から学者が集まったためこの区域ではなく、圃場部分、傾斜地は光圀の師である朱舜水の屋敷を構える可能性はないことから 1～3 号館の台地が屋敷のあった場所と考えられます。図 2、3 に浙江省余姚市と西湖、西湖と不忍池を示しました。西湖は「西湖を見てない者は風景を論ずる資格はない」といわれた中国一の景勝地で杭州市に近い余姚市出身の朱舜水は西湖を訪れたことでしょう。不忍池は琵琶湖だけでなく「小西湖」と呼ばれ西湖に見立てられていました。朱舜水の屋敷の区域の中で不忍池を眺望できる場所を推定しました（図 4）。光圀は西湖に見立てた不忍池を眺望できる場所を師のために屋敷の建設地に選定したことは十分想像できます。

4. 碑朱舜水先生終焉之地の周辺整備

朱舜水先生終焉之地は駒込邸の研究をもとに 1 号館東側に移転しました。残念ながら江戸時代、不忍池は見えなかった場所ですが、設置場所は明るく広々とした場所です。今後、段階的に周辺整備が行われます。この地は江戸時代から現在まで学問・教育の場で、日本と中国の橋渡しをした朱舜水の功績に相応しく利用者の憩いの場となる

整備を期待します。

参考文献

石原道博 1989『人物叢書　朱舜水』吉川弘文館

図 1　朱舜水祠堂跡に建立された朱舜水像
水戸市北見町NTT東日本茨城支社前

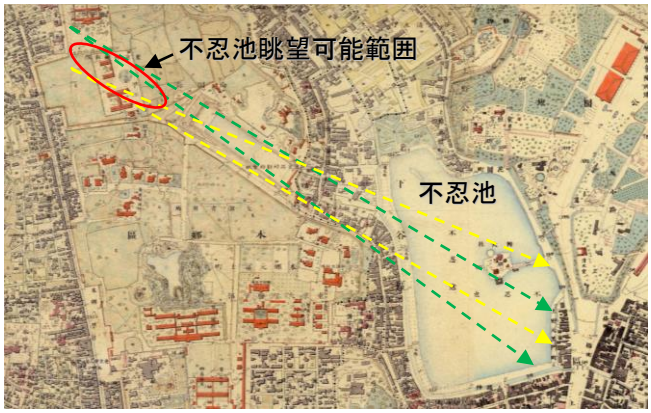
註

1. 清水謙多郎 2011「朱舜水碑の歴史」堀内秀樹・西秋良宏編、東京大学総合研究博物館発行『弥生誌―向岡記碑をめぐって』pp.58-60

図 2　浙江省余姚市と杭州市西湖(GoogleMap より)

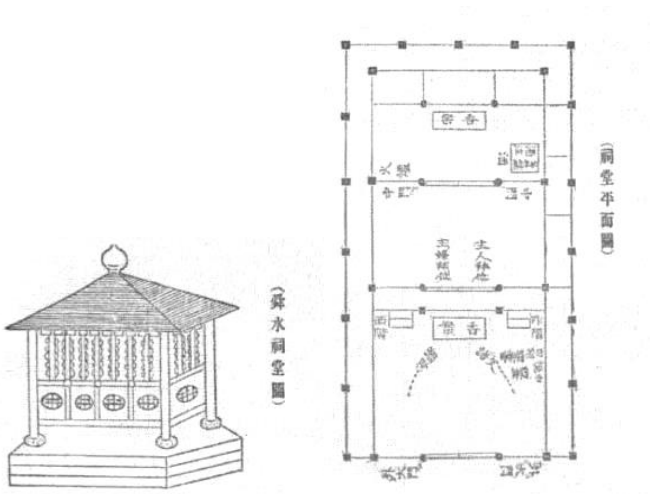
西湖　　不忍池

図 3　現在の西湖と不忍池(GoogleMap より)



国土交通省国土地理院所蔵 2011『参謀本部陸軍測量局五千分一東京図測量原図』財団法人日本地図センター明治 16(1883)年測量図より作成

図 4　駒込邸跡地　農学部 1～3 号館周辺で
不忍池の眺望可能な範囲



彰考館編 1914『朱舜水記事纂録』吉川弘文館発行
国会図書館蔵（YD5-H-344-433）

図 5　朱舜水祠堂(駒込邸か水戸の祠堂か不明)

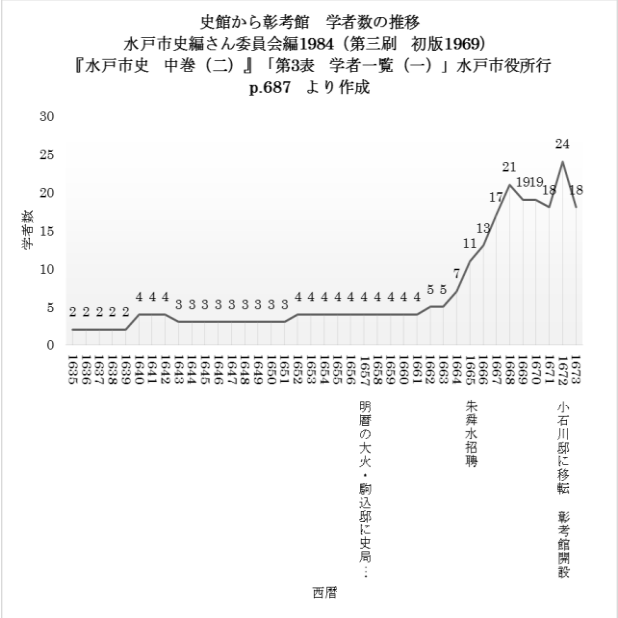


図 6　駒込邸史館の学者数の推移

2. 原祐一 2015「水戸藩駒込邸の研究―駒込邸と加賀藩邸の造成と雨水処理―」日本考古学協会第 81 回大会(2015 年度総会)発表要旨 pp.66-67

図 7 碑移転前

図 8 碑移転工事

表 1 朱舜水関連年表

年	水戸藩・朱舜水
慶長 5（1600）年	朱舜水浙江省余姚市で誕生
元和 8（1622）年	徳川頼房（初代）、駒込に屋敷地、五萬四千二百歩を拝領（駒込邸）
明暦 3（1657）年	1 月 18 日明暦の大火、徳川光圀駒込邸に避難、史館開設
萬治 2 年–寛文 5 年	朱舜水長崎居留
寛文元（1661）年	徳川光圀（2 代）藩主就封
寛文 4（1664）年	朱舜水と交流した木下順庵、加賀藩に仕える
寛文 5（1665）年	7 月光圀長崎へ彰考館員小宅処斎を派遣朱舜水招聘、加賀藩 5 代藩主前田綱紀、朱瞬水のもとに源（五十川）剛伯を派遣
寛文 8（1668）年	朱舜水、駒込邸の別邸に居住
寛文 9（1669）年	11 月 12 日、朱舜水を小石川邸後楽園に招く
寛文 12（1672）年	「彰考館」開館、駒込邸の史館を小石川邸へ移転、徳川光圀朱舜水を賓師に
寛文年間	1670 年頃、朱舜水設計円月橋築造
延宝元（1673）年	光圀別荘（駒込邸）にて学官を装い礼学の制度を学習・研究させる
延宝 4（1676）年	光圀儒者の剃髪を禁じ、束髪を命ずる
天和 2（1682）年	明僧心越と朱舜水会見、4 月 17 日、朱瞬水没（83 才）、瑞龍山に葬る
天和 3（1683）年	光圀、明僧心越を水戸へ招聘する
貞享元（1684）年	駒込邸に朱舜水の祠堂を建設、加賀藩 5 代藩主前田綱紀、源（五十川）剛伯に『明朱徴君集』（10 巻 「加賀本」）を編纂させる
貞享 2（1685）年	4 月 18 日、「上公詣先生祠堂修祭」、「致祭事」
貞享 4（1687）年	安東省庵「夢朱先生」
元禄 3（1690）年	10 月 14 日、光圀致仕し、綱條（3 代）襲封、4 月 18 日祭礼
元禄 4（1691）年	2 月 21 日「公詣先生祠堂修祭」、5 月 3 日、光圀、太田西山荘に退隠
元禄 13（1700）年	12 月 6 日、光圀、太田西山荘で没する
元禄 16（1703）年	11 月、江戸大地震で小石川邸全焼、駒込邸も過半を焼失、駒込邸の祠堂焼失
正徳 2（1712）年	朱舜水祠堂、水戸へ移転
正徳 5（1715）年	徳川光圀編『朱舜水先生文集』（全 28 巻）
明治 45（1912）年	朱舜水先生二百五十年紀年会、「朱舜水先生終焉之地」を第一高等学校敷地に建立、同校長新渡戸稲造揮毫、水戸徳川家、徳川宗家、尾張徳川家、加賀前田家、渋沢栄一、後藤新平、第一高等学校学生参加
平成 29（2017）年	「朱舜水先生終焉之地」5 回の移転を経て水戸藩駒込邸跡（農学部 1 号館東側）に移転

編集後記

朱舜水碑が移転したため、これまでの経緯をまとめました。壱部修正していますが、Vol.9 と合わせて読んでください。14 号発行から 1 年空いてしましました。向ヶ岡弥生町町会の町会長から今年の町会の新年会で「ネタがないのか」といわれましたがネタは山ほどあります。実際の発行日はすでに過ぎてしまいましたが、これまでの発行日通り発行してゆきます。

向ヶ岡弥生町
News Letter
VOL.15 2017 年 4 月 1 日発行
発行 原 祐一
連絡先 〒153-8904
東京都目黒区駒場 4-6-1 東京大学埋蔵文化財調査室
携帯 080-5504-9782 メール y-hara@dolphin.ocn.ne.jp
印刷 株式会社 芳文社
〒194-0037
東京都町田市木曽西 2-3-14
電話 042-792-3100